

令和5年度教育研究構想図

向島中学校版 「学びの変革」アクションプラン

夢と志を抱き、グローバル社会を生き抜く子どもの育成

学校教育目標

可能性への挑戦
～ これからの社会に必要とされる資質・能力の育成を目指して ～

研究主題

多様性を認め合い、学びを深める生徒の育成
～ 「問いの6段階」を意識した単元開発を通して～

研究仮説

授業のねらいや単元で付けたい力を明確にし、問いの6段階を意識した単元計画を工夫すれば、思考・対話・表現を通して、自他のよさや違いなどの多様性を認め合い、学びを深めることができるだろう。

本校の育てる資質・能力

表現力

主体性

設定理由

社会背景から、これからの変化の激しい社会を生き抜くための資質・能力を育てることが求められている。また昨年度に引き続き、学力調査から、基礎的基本的な知識及び技能の定着に課題があること、生徒質問紙から、自分自身に自信のないことに課題があることがわかった。そこで、学力については、教師がねらいや意図を明確にした問いを設定し、それに対する表現の方法を工夫すること、自己肯定感については、教務部・生徒指導部と連携し、各種アンケートの分析による手立ての工夫をすることで、生徒は自信を持って対話をし、自分を表現することで、学びを深めていこう。

育てたい資質・能力の説明

表現力

いろいろな価値観や背景をもつ集団の中で、生徒のもつ多様な意見に共感し、対話を通して考えを深め、他者に伝える表現活動から合意形成・課題解決に向けて問題に取り組む力【向島スタンダードの活用】

主体性

学ぶことに興味・関心を持ち、その学習過程や課題解決のプロセスを客観的に捉え、自らの学習を調整しながら学ぼうとする力

生徒の実態

グローバル化 少子高齢化
知識基盤社会

令和4年度全国学力・学習状況調査
・生徒質問紙で、「自分には、よいところがあると思いますか」に肯定的に答えた生徒 68.9%
令和4年度標準学力調査(1月実施)
・活用問題平均通過率 国語 53.5%、社会 34.0%、数学 22.4%、理科 26.1%、英語 43.3%であった。
(全国平均-6.58% ※5教科の平均)

重点取組

- 「基礎学力」の確実な定着に向けて
 - ・授業や学活などの時間を活用した、帯活動による基本的な学習習慣と基礎学力の定着
 - ・ペア学習や教え合い学習を充実させ、主体的に学びに向かう姿勢を育むなど学習集団作りの醸成
- 「課題発見・解決学習」の単元開発
 - ・生徒指導の3機能を基盤として、4つの学習過程を位置づけた向島中学校授業モデルの定着
 - ・問いの段階を意識し、それに対する学習活動や表現方法を設定し、授業後に評価・検討する時間の設定
 - ・毎時間の振り返りと単元ごとの振り返りの2つの振り返り活動の工夫・発展
- 「総合的な学習の時間」の単元開発と実践
 - ・小中9年間で育成を目指す生徒像を意識した系統的な単元開発
 - ・向島地域の特色を生かした系統的な単元開発
 - ・単元の中で積極的な外部人材の活用による体験活動の充実
 - ・自己表現力の向上に向けた、自分の学びをアウトプットする時間の設定
- 「自己肯定感」の向上に向けて
 - ・各種学力調査や各分掌のアンケート調査と連動し、個に焦点を置いた生徒への手立ての工夫
 - ・授業や行事などの教育活動全体を通して、生徒が主体的に活動する場面を増やし、生徒の充実感を高める

検証

- 1月実施の標準学力調査の活用問題での全国平均+5%以上
- 4月・1月実施の標準学力調査で各教科の正答率の伸び率+3%

- 学びの変革のアンケートで「自分には、よいところがあります。」「授業では、友だちと話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。」に肯定的に答える生徒の割合80%以上

- アセスのアンケートで、「難しい問題でも、どのような答えになるかねばり強く考える」「勉強の問題が難しいとすぐにあきらめてしまう」に肯定的に答える生徒の割合が+5%増加

▲【向島版】問いの6段階ピラミッド▲

▲問いの6段階▲

本質的な問い・単元を貫く問い・個別の問いを設定する際に、6段階を意識した構成にしましょう。単元や授業の中で何をねらう問いなのか明確にし、学習活動や表現の方法を設定しましょう。

Lev.6 創造する

Lev.5 評価する

Lev.4 分析する

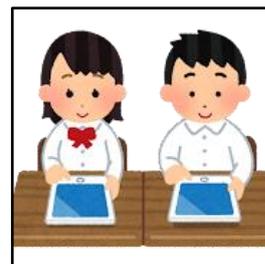
Lev.3 応用する

Lev.2 理解する

Lev.1 覚える

問いの例『器械運動 マット運動』

<p>Lev.6 創造する</p>	<p>💡 これまでに学んだ知識を組み合わせ、新しい価値を見出すような問い 幼児期の子どもが楽しくできるようなマット運動の方法について考えよう。 → 幼児期の心身の機能の発達は、個人差がある。また、基本的な生活習慣や生活の自立の基礎を培う重要な時期であるため、一人でも友達同士でも楽しくできる遊び要素の多い技を構成する。 例：テンポの良い音楽に乗せて、予備動作のゆりかごや、カエルの足打ち、カエル倒立などの運動を組み合わせた簡易的な連続技を構成する。</p> <p>関連する教科 家庭科 A(2) 幼児の生活と家族</p> <p>🔍 教科横断的な視点 🔍 カリキュラムマネジメントの視点</p>
<p>Lev.5 評価する</p>	<p>💡 自分の学習を既習事項に照らし合わせて評価するような問い 単元の最初の前転の姿と最後の前転の姿を動画で撮影しました。何ができるようになったか？ → 最初は前転の際に、うまく順次接地ができていなかったが、練習を通しておへそを見るようにしたことや、膝を伸ばして遠心力をつけることで回転力のあるスムーズな前転をすることができるようになった。</p>
<p>Lev.4 分析する</p>	<p>💡 比較・分類などの作業を通して、相関関係を見出し、課題などを明確にする問い</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="359 1659 523 1989">  </div> <div data-bbox="550 1646 1300 1926"> <p>友達の上手い演技から学ぼう！ → 上手い人と自分の技の比較をし、既習事項を用いて、体の動きや姿勢を比較し、技を上手く演技するためのポイントや体の動かし方などを模索する。 ※自分の課題を明確にし、改善するために必要なことを見出す作業。</p> </div> <div data-bbox="1326 1659 1490 1989">  </div> </div>



<p>Lev.3 応用する</p>	<p>💡知識を活用させるような問い</p> <p>倒立前転は倒立と前転という異なる技が組み合わさった技であるが、2つの技をつなぐ際に必要なことはどのようなことであるか？</p> <p>→倒立から前転にスムーズに移行するためには、順次接地をするために、倒れそうになった瞬間に肘を曲げて、おへそを見るようにして、マットに後頭部→首→肩→背中→腰→尻の順番に着くようにすれば回転力を生かしたスムーズな倒立前転になる。</p>	
<p>Lev.2 理解する</p>	<p>💡知識を概念化させるような問い</p> <p>前転をする際に、「おへそを見るとよい。」とあるが、なぜおへそを見るのが重要であるのか？</p> <p>→おへそを見ることで頭が内側に入り込み、自然と背中が丸くなる。前転の際に、後頭部から順番にマットに接地することで回転力が増し、きれいな前転になる。(順次接地の考え方。)</p>	
<p>Lev.1 覚える</p>	<p>💡知識や技能を習得するための問い</p> <p>マット運動の技術や名称、技能を習得する上で必要なポイントを覚える。(前転は回転系の接転・前転グループに属する。回る時におへそをみるとよい。)</p>	

✎ 単元を構成する際に必要な問いの三つの階層 ✎

